

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度(評価)	
A	:十分達成できている
B	:おおむね達成できている
C	:やや不十分である
D	:不十分である

学校名	唐津市立打上小学校		
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ほとんどの項目で成果指標が達成できた。しかし、そのための準備等に時間がかかり、働き方改革が思ったほど進まなかった。 3年間の人権・同和教育の研究が終了した。今年度は、新たな気持ちで、算数科を中心とした校内研究を進めていく。 コロナ禍における一人一台タブレットの活用が急務である。そのための職員同士の情報交換と職員研修の充実を図りたい。 		
2 学校教育目標	学ぶ力とかかわる力を持ち たくましく生きる子どもの育成		
3 本年度の重点目標	① 学力向上「一人一台端末活用の推進」「子どもが活躍する授業づくり」 ② 豊かな心「人権教育の推進」「体験活動の充実」 ③ 健康・体づくり「早ね・早起き・朝ごはんの推奨」「外遊び・体力づくりの奨励」		

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1)共通評価項目	重点取組			最終評価		学校関係者評価		主な担当者	
	評価項目	取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	達成度(評価)	実施結果	評価		意見や提言
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上	●教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修等により取組の促進を図る。	A	・学力向上対策評価シートに示したマイプランを100%達成できた。 ・全担任授業研究会を実施し、校内での取り組みを推進した。	A	・今年度の学習状況調査の結果をみても、児童や教職員ががんばったことが伺える。	(学力向上CD・研究主任・6年担任) 吉田・永田	
	◎自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進	◎自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちがあると答えた児童80%以上	・行事や授業を通して、自分の夢や目標について考える場面を設ける。 ・「なかよし学習」を進め、毎時間振り返りの視点を示して振り返りを行うことで、達成感や自分の成長を感じさせる。	A	・自分で決めたことや夢(目標)に向かって頑張っていることと答えている保護者が80%、児童は90%だった。自分の決めたことや夢(目標)を意識して取り組んでいる様子が見られた。 ・子どもさんが学校や家庭で勉強を頑張っていると答えた保護者が91%、授業で「わかった」とか「がんばった」と思うことがあると答えた児童が98%だった。	A	・ゲストティーチャーを迎えての授業が多く行われたようだ。キャリア教育につながっていることが伺える。 ・打上の産業である「農業の魅力」をもっと伝えてほしい。例えば、いちごを作ってすごい年収をあげている例など。	(キャリアパスポート担当・特活部) 諸岡・古館	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	●道徳授業の充実と支持的風土の学級経営により、人権意識や自己肯定感、規範意識の涵養が出来た児童80%以上	・道徳科の授業づくりに関する校内研修等の実施 ・児童の実態に合わせた内容を取り上げ、身近な問題として考えさせるようにする。	A	・年間計画に基づいて道徳科の授業を進めることができた。アンケートで、人権意識や規範意識の涵養が出来た児童が100%だった。 ・人権教室を、内容に合わせて1・2年生と3～6年生に分けて実施することができた。	A	・打上小の子供たちは、よく挨拶するし、友達のめんどろみもいい。そして、最近、子供たちの悪い話を聞かない。	(道徳教育推進教師・人権・同和教育担当・生活主任) 尾島・浜中	
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	●いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)について組織的対応ができていたと回答した教職員80%以上	・なかよしアンケートを毎月実施し、いじめの早期発見・早期対応に努める。 ・日々の児童観察を大切に、アンケートに表れていない面についても、気になることの早期発見・早期対応に努める。 ・毎月の生活指導協議会で対応の仕方を協議し、組織的な対応を行う。	A	・なかよしアンケートを毎月継続して実施することができた。各クラスの課題を全校職員で確認、共通理解することができた。 ・生活指導協議会では、気になる児童やクラスの様子を情報交換、共通理解することができた。ただ、その時間だけでは、対応の仕方等を協議する時間は足りない。問題行動にすぐに対応できるように組織の更なる強化が必要である。	A	・いじめの報告件数やその内容、そして、アンケート結果から見ても、早期発見・早期対応・組織的対応ができていていることが伺える。	(生徒指導・いじめ防止担当) 浜中・吉田	
	○特別活動による自主的実践的な態度の育成	○「よく見る・よく聞く・よく考える」を取り組むことができたことと答えた児童80%以上	・活動の前には確認し、意識を高め、活動の後は振り返りの場を設けて、頑張ったり協力した視点で発表させたり、まとめた。発表中の友達の発言をしっかりと聴くよう指導し、話す人も相手を意識させる。	A	・課題にぶつかったとき、その解決に向けて自分で考えて取り組んでいると答えた児童が96%であった。また、そういう子供を育てる事を意識して指導している教師が100%、自分の子供が、自分で考えて進んで取り組んでいると答えた保護者が86%とすべて数値目標を超えることができた。	A	・課題にぶつかったとき、その解決に向けて自分で考えて取り組んでいると答えた児童が96%だったのはすごい。 ・ブロック活動や縦割り班掃除など日々のがんばりが結果につながっているのではないだろうか。	(特別活動部) 永田・諸岡	
●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●「健康な食事は大切である」と考える児童生徒80%以上	・保護者への啓発と児童への声かけを頻繁に行う。	A	・我が子が「早寝・早起き・朝ごはん」ができていると答えた保護者が85%、児童自らは98%である。今後も食育だよりや給食だよりなど給食時間の指導や食に関するクイズなどを通して、食の大切さを伝えていきたい。	A	・生活チェック表をもとにほとんどの子供が「早寝・早起き・朝ごはん」がしっかりとできているようだ。 ・世間では、子供がごはんよりパンを好み、母親も朝、味噌汁を作ることが減ってきているようだが、これからは、朝食の内容の向上を考えていきたい。	(栄養教諭・保健担当) 宮崎・宮崎	
	○体力向上を意識した取り組み	○アンケートで「元気に外遊びや体力づくりができた」と答えた児童80%以上	・体育の行事や授業の中で、児童一人一人がめあてを持って体力向上に取り組むことができるようにする。 ・外遊びを日常的に促す。	A	・体育の学習においても、引き続きめあてを持たせ、体力向上に取り組ませた。コロナ禍の影響で、体育の行事を懸念されているが、体力向上のための取り組みとして、1月になわとび大会を計画している。 ・コロナ禍の影響がある中、マスク着用などの声かけとともに、外遊びを日常的に促した。「元気に外遊びや体力づくりができた」と答えた児童は95%と積極的に活動している。	A	・学校がある時は、運動場で子供たちが遊んでいるところをよく見かける。ただ、休みの日に近所で遊んでいる子供は少ないようだ。ゲームや習い事で忙しいせいもあるのではないかと。	(保体部) 中尾・田代	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・時間外勤務時間を月平均30時間以内を目指す。(年間360時間以内) ・業務の精選と効率化を図り、質の高い業務内容を目指す。	A	・4～12月の時間外勤務時間は、月一人平均21:31であった。昨年度は37.42だったので16:11短縮できた。次は全員が月一人平均30時間以内を目指したい。 ・業務の精選と効率化は、職員が一つ一つの仕事に対してその都度内容の見直しを図りながら進めることができた。	A	・19:00頃、学校の電気がついていて、先生達がんばっていると思う反面、何かあったのではないかと心配になる。 ・時間外勤務時間は、年360時間(月30時間)以内と法律で定められているし、先生方の身体のことを考えると短縮に向かっていく必要がある。	(服務・業務の効率化担当) 山本・横内	

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目								
評価項目	重点取組			最終評価		学校関係者評価		主な担当者
	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○ICT利活用教育の推進	○一人一台端末活用の推進	○一人一台タブレットを活用できたことと答えた児童と教師80%以上	・教職員間でタブレットの活用法を共有するとともに、校内研修等により取組の促進を図る。	A	・一人一台タブレットを活用できたことと答えた教師は86%で、日常的に活用することが出来た。児童はタブレットを活用した授業に意欲的で、使い慣れており、タブレットの活用に93%の児童が好意的に捉えている。 ・ミライシードやTeamsの活用方法などの授業で活用出来そうな内容の校内研修を、長期休業中に2度行った。授業研究会でも、タブレットの活用方法についても話し合い、研修を深めた。	A	・よくタブレットを持ち帰って宿題をしている。 ・欠席したとき、授業の配信があるので安心。 ・ネット環境を更に整えて、教育格差をなくしていきたい。	(ICT担当・授業力向上担当) 田代・中尾

5 総合評価・次年度への展望	<p>●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育</p> <ul style="list-style-type: none"> すべての項目で数値目標を達成し、中間評価のBからAにアップした。児童や職員のがんばりが感じられた。 毎日どこかのクラスがタブレットを持ち帰っている姿が日常となってきた。更なるICTの利活用と職員研修の充実を図ってきたい。 校時表の工夫をするなどして教材研究の時間を増やしたり、時間外勤務時間を減らしたりしたが、まだまだ職員の働き方改革を進める必要がある。
----------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------